

《平成30年度の経過と評価》

開所当初より、「笑顔あふれる職場をつくろう！」をテーマに掲げ、利用者1人ひとりが、よりよく生きること、(暮らす・働く・余暇活動の充実)、QOL(生活の質)を高める手段として日中活動種目(生産活動・余暇活動)を設定している。店舗運営、及び支援の形づくりにあたり、毎月の班会議、支援会議、また職員会議等を通して、職員1人ひとりが考え参画する運営体制が確立してきた。年度途中で1名が病气療養により退所し、契約者数が22名となった。安定的な運営のために新規利用者の確保は急務である。マッチング等に配慮しながら積極的に受け入れを行いたい。組織作りについて、中・長期的視点で人材育成をすすめる。また他事業所との連携・協力をよりすすめた支援体制づくりを進めることを目標としていたが、月2回の管理者会議の実施などにより、協力体制が出来つつある。

生産活動は、主な作業班に所属しながら、能力や意識の向上を目的として、ジョブローテーションを掲げ実施した。すべての利用者ではないが、昨年度よりも多くの利用者に関わることが出来た。次年度も、希望や適性を考慮しながら計画的に実行し、モニタリング、及び評価を通して確認した利用者一人ひとりの課題・目標、思いを受け止めよりよい支援を追及していく。今年度は、地域連携アドバイザーと業務委託契約し、地域資源の掘り起こしをおこなった。ブルベリージェラート等、しっかりと形になったものもあった。実績に繋がるものは少なかったが、様々な人々の関係作りは進展しており、今後を期待したい。

【喫茶部門(Café 奏)】は、年4回の定期イベントの開催、“ランチ本”、“東三河モーニング街道”への参加などにより、年間を通して認知度の拡がりを感じ、定期の顧客も増えている。利用者も準備、片付け、接客等、各方面で力がつき、メニュー数も増えてきている。しかし、オペレーション(手順書、写真等)を工夫し、利用者(職員)がわかりやすい設定をし、より活躍できる環境を整える必要がある。また、季節限定の新メニュー(グリーンスムージー、ゆず茶、カボスドリンク、濃厚ブルーベリースムージー等)地元の食材を使ったものを開発した。また、LINE@や、ランチ本などを活用し新たな顧客の開拓を行っている。

【焼き菓子部門(OYATU 工房という)】は、店舗営業時間内は喫茶部門と一体的に運営され、日替わりパン、ピザパン等を提供している季節に合わせたオリジナルギフト商品も予算に合わせて企画している。販路の開拓、新商品(ゆずジャムケーキ、アイシングクッキー、桜サブレ、かけそば等)の開発を積極的におこないコアな顧客の獲得に一躍買っている。地域の店舗、コンビニ等でも販売展開をしているが、販売店舗数を増やすことはできなかった。購入しやすい価格設定もあり個人での大量注文も多く認知も拡がってきたが、低価格のため売り上げ増には至らなかった。バザーなど外部での販売についても可能な限り利用者も参加し充実感を得ることが出来た。利用者も、クッキーやパンづくり、パッケージング、オープンの使用等幅広く関わっている。

【軽作業部門（楽²）】では農作業（自然栽培）を軸とした組立てを行い、全国的な組織自然栽培パーティーに参加し、事業の拡大を行っている。作物について模索してきた中で、ブルーベリー、落花生、サツマイモを中心に事業展開を行なえる目途が立った。

ブルーベリーは、主に生や喫茶でのスムージー、ジェラートアイスでの提供、落花生は炒って小袋に詰め、サツマイモは、干し芋にして販売するなど、6次化産業に向けての土台造りを行うことが出来た。委託作業はパクチーの選別、箱折りをおこなった。治具などを工夫することにより、一人ひとりの作業能力が向上したことや、ジョブローテーションによる他班利用者の協力もあり、売り上げは大幅に増えた。その他、季節に合わせて野菜等を栽培し、店舗での提供と共に店頭販売もしている。

工賃は、月額7,000円（一律支給：日給350円）に上乗せすることができなかった。次年度は、工賃アップも視野を行なっていきたい。

生産活動とのバランスをとりながら、日中活動としてクラブ活動（カラオケ、書道、音、リズム体操、太鼓、茶道、ダンス、さをり）を設定し、多様な活動の中から選択できるようにした。次年度も、生産活動とのバランスを考えながらメリハリを持った支援を行いたい。

次年度の重点課題として、事業運営の強化、利用者サービスの拡充、人材育成、を掲げ、利用者、職員、家族等、関係者も含めて、笑顔あふれる職場づくりすすめ、選ばれる事業を目指していく。

《重点課題に対する取り組み》

1. 運営基盤の強化

昨年度末に、中心的な職員が1名退職し、年度当初はかなりバタバタしてしまうことがあった。年度途中に、2名の職員を採用し、当初に比べると体制は整ってきたが経験不足もあり、職員の数に見合った支援が出来たとはいいがたい。

職員一人ひとりの積極性、主体性が発揮されつつあるが、まだまだ遠慮してしまうことも多い。課題であった職員間のコミュニケーションについては、以前よりも改善されてきているが行き違い等も見られたため、より綿密な関りが必要と思われる。

事業所間の情報共有については、月2回の管理者会議を行なうことによって情報共有や、連携は向上してきた。

年度途中に利用者1名が病気療養を経て退所し、契約利用者数が22人となった。職員体制が整っていなかったこともあり、新規利用者の獲得には慎重に行った。次年度は、体制をしっかりと整え、新規利用者（卒業予定者）獲得のため学校訪問や、随時の見学、日中一時、体験利用などを通してマッチングを計り不安材料を減らしながら定員充足に向けた措置を計り障害福祉サービス事業収入を増やす努力、工夫を継続し、安定した事業運営ができるようにしていきたい。

2. 利用者サービスの拡充

年間開所日（253日）に加え、活動日（4日）を設定した。昨年度は、人によって活動日が違い混乱を招くことがあったため、今年度は、希望する場合はすべての日に参加できるように改善した。小グループであらかじめ行きたい場所を利用者と共に考えるなど、プロセスも大切にした。クラブ活動も8種類を設定し、可能な限り自己選択を優先するようにした。途中都合により休止してしまっただクラブがあったことは反省点ではあるが、極力、生産活動以外のニーズにも応える努力をした。

生産活動については、利用者の作業能力の向上や、店舗の運営の努力もあり、売り上げは増えているが、工賃の増額には至らなかった。送迎については、希望するすべての利用者への対応を行っているが、今後の利用者の増加や、希望などを考慮しながら、より利用しやすい環境を整えていく。市内の福祉事業所が飽和状態にある中、やりがい、サービスの質、工賃の向上につとめ、利用者には選ばれる事業所となるように努力、工夫を継続する。

3. 人材育成／支援力の向上

事業所全体の支援力の向上を図るため、年間を通して、外部研修に全ての職員が参加する機会を継続設定した。毎日の朝礼、夕礼で日々の予定や振り返りを行ない、改善点などは、迅速に対応できるように努めた。送迎や短時間勤務者のために、連絡ファイル(朝)を活用し、夕方の『今日の振り返り・明日の予定』については全職員にメール配信し、情報、意識の共有化を図った。職員会議、支援会議、班会議等、事業運営における情報についても、全職員へ回覧している。研修に参加した職員は必ず職員会議で報告し、共有化の意識付けを行なうスタイルも定着してきた。

個別支援計画、モニタリング、評価に対して全ての職員が関わることで情報共有、意識の統一化、支援力の向上を図ることができた。

また、全職員に対して年2回、管理者が個人面談を行い目指すべき方向性、あるべき姿、役割、個々のニーズを確認することが出来た。

課題として、職員数が増えた分、『自分がやらなければ』から、『誰かがやってくれる』という雰囲気が見られることもあったため、一人ひとりが主体的、積極的に関わられるような仕組みづくりを行なう。今日の福祉業界において事業の組み立て、運営を考える中、人材育成を最重要課と位置付け、次年度に向け継続課題として注力する。

《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
8/22	豊橋商業高校	1			
12/4	東部中学校	2			
1/17	石巻中学校	1			

《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	0	1	2	3	4	2	5	2	8
年間延べ人数： 27人												

《 防災計画・安全管理：防災訓練、防災委員会活動 》

防災訓練・学習 実施日			
5/30	防災訓練（地震想定）	10/26	防災学習（避難経路）
6/29	防災学習（地震について）	12/20	防災訓練（地震想定）
9/30	防災訓練（地震想定）	3/16	総合防災訓練 引き取り訓練（地震想定）

防災委員会活動	
4/19	今年度年間計画について
6/22	避難所運営ゲームHUGを用いて災害想定訓練
8/16	BCP マニュアルの更新について・法人 HUG 作成について
10/31	防災アンケート（オクレンジャー）より・BCPマニュアルの更新について・
12/20	総合防災訓練について・防災備蓄品について BCP マニュアルの更新について・法人 HUG 作成について
2/21	総合防災訓練（法人全体研修）の確認・防災備蓄品について BCP マニュアルの更新状況・法人 HUG 作成状況
3/16	AM 法人全体防災訓練実施（担架、マンホールトイレ、発電機始動、引き取り訓練等） PM 救急救命訓練（AED）
3/16	総合防災訓練の振り返り・今年度の反省と次年度のについて

《 職員研修 》

月	内容	対象者
4月	食品衛生講習会	生活支援員
5月	OJT サポート研修	新人職員
6月	自然栽培パーティー東海ブロック勉強会 5Sについて ローマネジメント研修	生活支援員 法人全体 中堅職員
7月	東三セルフ事務員研修 東海地区知的障害関係施設職員研修	事務員 管理者・生活支援員
8月	東三セルフ他地域見学研修会 OJT サポート研修	生活支援員 新人職員
9月	施設職員口腔ケア研修会 初任者研修 東三セルフ療育研修会 ローマネジメント研修 メンタルヘルス研修	看護師 生活支援員 生活支援員 中堅職員 法人全体
10月	行動援護従事者研修 食品衛生講習会	生活支援員 生活支援員
11月	OJT サポート研修 職場のメンタル対策セミナー 食品表示セミナー	新人職員 管理者 管理者
12月	メンタルヘルスセミナー 権利擁護研修 虐待防止・権利擁護研修 ローマネジメント研修 セルフサービス管理者研修	管理者・生活支援員 法人全体 生活支援員 中堅職員 サービス管理責任者
1月	SST 活用研修 農副連携工賃向上研修 ワークライフバランス研修	生活支援員 生活支援員 管理者
2月	OJT サポート研修 東三セルフ共同研修会 イノベーション研修 自然栽培パーティー全国研修会 自然栽培パーティー勉強会	新人職員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員
3月	自然栽培パーティー勉強会 ハラスメント研修 救急救命・防災研修 ローマネジメント研修	生活支援員 管理者・生活支援員 法人全体 中堅職員

《 生産活動 売上金額 》

月	奏+といろ 売上金額 (円)	楽 2 売上金額 (円)	計 (円)
4	271,207	84,611	355,818
5	221,362	197,386	418,748
6	389,887	133,235	523,122
7	257,252	243,293	500,545
8	367,980	307,875	675,855
9	291,185	144,739	435,924
10	468,437	178,087	646,524
11	392,923	153,096	546,019
12	388,274	173,123	561,397
1	213,855	135,656	349,511
2	409,557	208,296	617,853
3	373,185	131,709	504,894
計	4,045,104	2,091,106	6,136,210

《原材料費率=原材料費／売上金額》

計	1,096,033	285,801	1,381,834
比率	27.1%	13.7%	22.5%

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計
男性	2	2	6	2	—	—	—	12
女性	3	4	3	0	—	—	—	10
合計	5	6	9	2	0	0	0	22

※平均障害支援区分：4.63

【年齢別人数】

生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	1	3	3	1	4	1	13
女性	0	2	1	1	5	0	9
合計	1	5	4	2	9	1	22

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	34.5	19	54
女性	37.3	21	47